

F-SOAIPとは、多職種協働によるミクロ・メゾ・マクロレベルの実践過程において、生活モデルの視点から、当事者ニーズや観察、支援の根拠、働きかけと当事者の反応等を「F (タイトル)」「S (利用者等の言葉)」「O (観察・多職種情報等)」「A (考えたこと)」「I (対応したこと)」「P (予定)」の項目で可視化し、PDCAサイクルに多面的効果を生むリフレクティブな経過記録の方法。

2025年12月号の第1報に次ぎ、法人を挙げてF-SOAIP研修に取り組み、アンケートの実施や定期的な情報共有などで職員のモチベーションを持続させることにも力を入れている実践を紹介します。次回、第3報は2026年5月号に掲載予定です。

## 社会福祉法人聖隷福祉事業団 第2報

# F-SOAIPによるケアマネジメント実践の質向上を実感 ～「時短で楽しく記録する」ことを目標に～

聖隷ケアプランセンター浜松 主任介護支援専門員 中 志野

### F-SOAIP導入経緯

F-SOAIPは、経過記録を整理して記載するための方法の一つであり、利用者支援のプロセスを体系的に整理するフレームワークである。チームケアや継続支援に適した記録方法であり、情報の整理により読みやすく、支援経過が追いやすい、多職種間での共有が容易等の利点のため、ケアの質の向上に寄与することが期待される。

当事業団では、2024年度よりF-SOAIPによる記録方法の学習を開始し、支援経過記録での活用を進めてきた。「F-SOAIP係」を設置し、理解促進を目的として「F-SOAIP便り」(図1)を発行し、記録業務にとどまらず、サービス担当者会議、事例検討、スーパービジョン等の実践場面での活用についても試行を重ねている<sup>1)</sup>。

2025年度は「時短で楽しく記録する」ことを目標とし、F-SOAIPを初めて学ぶ職員を対象とした「基礎編」と、既に活用を進めている職員を対象とした「実践編」の2つの研修を企画した。

なお、参加対象者は、居宅介護支援事業所・地域包括支援センター・相談支援事業所等において相談援助業

務に従事する職員とし、講師にはF-SOAIPの開発者を招聘し実施した。

### 「基礎編」研修のふりかえり

基礎編では、「記録の要点が整理できる」「思考が整理される」「支援者の考えが書ける」「振り返りに使える」など、F-SOAIPの意義や記録による思考整理の効果については概ね理解が得られた。一方で、初学者には書き方やペースに難しさを感じる声も多く、理解度にばらつきが見られた。今後は具体的な記載例の提示や演習時間の工夫など、より段階的な導入が求められる。

### 「実践編」研修のふりかえり

基礎編よりも「書けるイメージが持てた」「各項目で何に着目して書くかが分かった」といった概念理解から記載行為へ一段階進んだことが読み取れる。また、「他の人の記録を見ることができた」「ワークシートの添削をみることで良かった」「色々な人の意見を聞き、比べることができた」などの意見から、一人で理解するのではなく、差異を

見て学ぶ構造に効果があることが明確となった。事前課題の効果として「大変だったが、やってみて良かった」「自分の記録を振り返ることができた」との意見があり、負荷は高いが、学習効果は高いことが分かった。

研修時の教材別ワークの成果は(図2)としてまとめた。

### 筆者が受講したF-SOAIPリーダー養成研修の成果

参考のため、筆者自身が受講した2025年度埼玉県立大学主催の「F-SOAIPリーダー養成研修」で提出課題となっていた「F-SOAIPワークシート」(図3)、及び「F-SOAIP好循環シート」(図4)を紹介する。

### 「F-SOAIPワークシート」で理解できたF-SOAIPワークシートの2つの用法(図3)

F-SOAIPによるメリットは、項目毎の情報の集約、整理ができ、情報共有に有用であることであることが分かった。一方、「(利用者・家族)の心の動きや状況の移り変わりなどが分かりにくくなった」と記してある。これは、このワークシートでは、F-SOAIPの「要約的